

情報技術革命の本質

- 我々は何をすれば良いのか -

慶應義塾大学

政策・メディア研究科 特別研究講師

土本康生

自己紹介

- 1971年6月 広島市東区温品に生まれる
- 1991年4月 インターネット技術に触れる
- 1993年3月 WIDEプロジェクトメンバーとして研究活動開始
- 1995年3月 慶応大学 環境情報学部卒業
- 1997年3月 慶応大学 政策・メディア研究科修了
- 2001年9月 慶応大学 政策・メディア研究科 特別研究講師
- 2004年3月 慶応大学にて博士号取得
- 2004年8月 アジア工科大学院 intERLab 客員講師

今日のトピック

- 情報技術革命って何？
- 世の中の成功事例を見直してみる
- 情報技術の本質は何なのか？
- 情報技術活用のポイントはどこにあるのか？
- 我々は何をするべきなのか？

インターネットは 世の中の何を変えたのか？

- インターネットを使うことで便利になった世の中
 - ◆ 遠くにいる友達と容易に連絡が取れる
 - ◆ 遠くの情報をお容易に入手できる
 - ◆ 体を動かさなくても買い物ができる
- 実は本質的には変わっていない我々の生活
 - ◆ インターネットがなくても...
 - 友達と連絡は取る
 - 情報は入手する
 - 買い物にも出かける

世の中はどう便利になったのか 成功事例

- 電子メール
- チャット
- IP電話
- 買い物
- 銀行業務
- 証券業務
- ポータルサイト
- 旅行手配
- 電報
- 医療
- 地図を見る
- 本を読む
- 音楽を聴く
- 映画を見る
- テレビを見る
- ラジオを聴く
- ゲームをする
- :
- :

情報技術革命とは、
そもそも何であろうか

復習 ー 技術が変えた世の中

- 文字
 - ◆ 知識(情報)が蓄積され始める
- 郵便
 - ◆ 情報の伝達
 - ◆ 遠くの人にも情報を伝えられる
- 活版印刷
 - ◆ 文字情報の大量生産が可能となる
 - ◆ デジタルではないが情報が流通しやすくなる

通信技術が変えた世の中

- 電信
 - ◆ 文字のデジタル化
 - ◆ 電気信号による伝達
- 電話
 - ◆ 高速に音声情報を伝える
- コンピュータ
 - ◆ あらゆる情報をデジタルで取り扱う
- インターネット
 - ◆ あらゆるデジタル情報を流通させる

ここがポイントとなる

情報技術革命の本質

- すべてのものをデジタルで表現する
- すべてのものコンピュータで扱う
- すべてのものがインターネットで流通できる

世の中を大きく変えたように見えるが
やってることは実はあんまり変わっていない

情報技術革命の広がり

- インターネットが支えるコミュニケーション
 - ◆ つながらなかった人がつながる
 - ◆ インターネットは距離を縮める技術
 - ◆ SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)
 - ◆ Skypecasts
- コミュニケーションの敷居が低くなる

情報技術活用のポイント

- 身の回りをよく見てみる
 - ◆ デジタルであらわされていない情報はないか？
 - ◆ デジタルで処理されていない作業はないか？
- 人間は何を欲しているのか
 - ◆ 結局のところ、活動をしているのは人間
 - ◆ 人間のコミュニケーションを支える仕組み

目指すべき方向

- 情報技術を活用して何をするのか？
 - ◆ 巨大企業を目指すべきか？
 - iPod + iTS by Apple
 - Everything on Google
 - ◆ 自らの事業をサポートするのか？
- 広島は物づくりで発展してきた街
 - ◆ 成功事例に引っ張られすぎない
 - ◆ 物作りから切り替える必要はない
 - ◆ 物作りを支えるような仕組みの導入

我々は何をすべきか

- ソフトウェア開発
 - ◆ 無いものは作る
 - ◆ デジタル化のポイントをはずさない
 - ◆ コミュニケーションを支える仕組み
- 注意点
 - ◆ ソフトウェア開発そのものはゴールではなく手段
 - ◆ 作らなければならないポイントを明確に

まとめ

- 世の中はさほど変化していない
- 情報技術は我々の生活を少しだけサポート
- ビジネスチャンスは身近にある
- 世の中を観察する
 - ◆ デジタル化できるポイントを探る
 - ◆ コミュニケーションを支えるポイントを探る
- あきらめない